

## 対馬暖流は沿岸寄りを北上 対馬暖流の流量は平年よりも7割増し 今後の沿岸水温は平年並まで低下

2023年11月27日～12月6日にかけて実施した日本海定期観測の結果をお知らせします。  
対馬暖流は道南の海域では沿岸寄りを道央の海域ではやや沖合を北上しています（図1c）。また、積丹半島沖では冷水渦がみられます（図1c）。  
石狩湾沖で計算した対馬暖流の北上流量は約2.2 Sv（1 Sv=10<sup>6</sup> m<sup>3</sup>/s）で平年よりも7割多くなっています（12月流量の平年値は1.3 Sv）。  
50 m深水温は9～13 °Cでほぼ平年並みの海域が多いですが、対馬暖流流軸の内側にあたるせたな沖、石狩湾の沖合、宗谷海峡西方の海域で平年よりも約2 °C高くなっています（図1a,b）。  
12月上旬の余市前浜水温は「かなり高い」ですが（※1）、向こう1ヶ月の気温の予報は平年よりも低くなる確率が高くなっていますので（※2）、今後、沿岸水温は「平年並み」まで低下することが予想されます。

※1 <https://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/kankyou/suion/index.html>

※2 気象庁HPより1ヶ月予報：<http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/>



余市前浜水温 気象庁1ヶ月予報

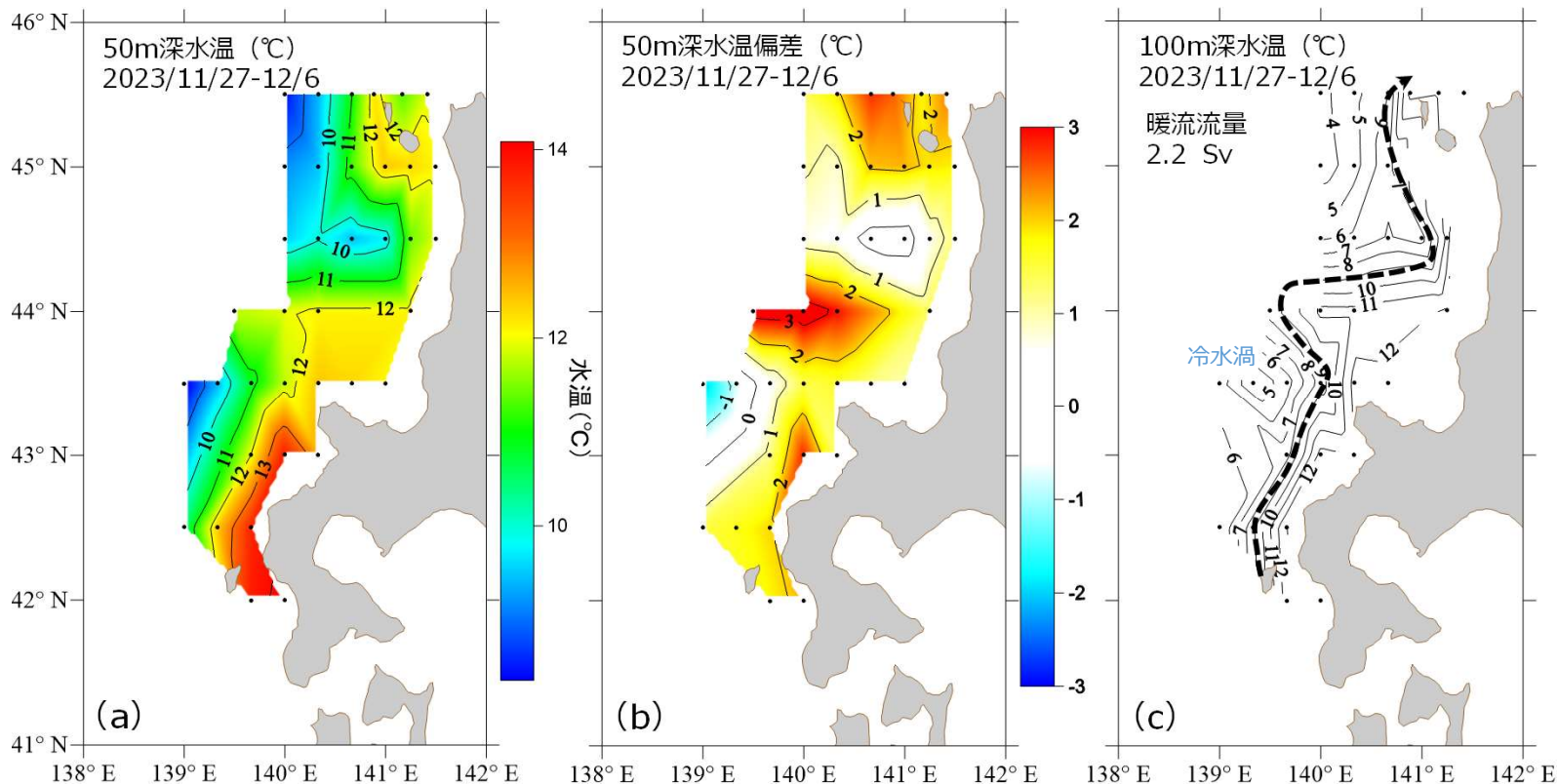


図1 2023年11月下旬～12月上旬における (a) 50m深水温 (b) 50m深水温偏差の水平分布、(c) 100m深水温の水平分布と対馬暖流の流路（矢印）。水温偏差は過去30年（1989年～2018年）の平均値から算出。流量の単位はSv（=1×10<sup>6</sup>m<sup>3</sup>/s）。